

平成 27 年度 燕市西蒲原郡生活科部 活動報告

部長 石井 正文

1 研究主題 「子どもの思いを大切にした生活科授業の工夫」

2 研究の概要

自ら考え、自ら学ぶ子どもを育てる上で、子どもの思い、考え、願いを中核にした活動を組織する力が求められている。今年度も、授業研究と教材研究の二つを柱として主題に迫ることとした。

3 研究の実際

(1) 第1回部会 平成27年6月3日(水)〈会場：燕市立小中川小学校〉

授業研究 「わくわく ときどき こながわしょうがっこう」(1年1組)

授業者：燕市立小中川小学校 長谷川久美子 教諭

指導者：新潟市立笠木小学校 井浦 順子 校長

○ 授業の概要(2時間目/全9時間)

学校を探検し、学校には「いろいろな部屋」があるということ、そして、それらの部屋には「いろいろな仕事をしている人」がいるということに気付いていく単元である。本時は、班ごとに決めた部屋に探検に出かけ、見付けたものや人を絵や言葉で表現する活動であった。それぞれの部屋でたくさんの発見をしたり、一人一人が全体の前で大きな声で発表したりして意欲的に活動する姿が多く見られた授業展開であった。



協議会では、「たくさん見付けてほしいが、たくさん発表すると時間がかかる」という授業者の悩みについて話し合った。「一番のおすすめ」「みんなが知らないこと」など観点を決め、グループで相談してから発表する、聞く側の子どもにも「発表を聞いて、次に探検する部屋を決めよう」など聞く視点を与える等の考えが出された。指導者からは、「子どもの気付きの質を高める生活科の授業づくり」「子どもの思いを大切にした生活科の評価」について指導をいただいた。

(2) 第2回部会 平成27年12月3日(水)〈会場：燕市立燕南小学校〉

実技研修「おもちゃ作り」

指導者：燕市立吉田小学校 加藤 聡 教諭

燕市・弥彦科学教育センター 井上 忍 専任所員

○ 内容

紙コップや輪ゴム、竹串、ペットボトルなど、身近な材料で作ることのできる7種類のおもちゃを指導者から紹介していただき、実際に作ったり遊んだりした。「どんな工夫ができるか」「どんな遊び方ができるか」についてグループで話し合う活動も行った。



「おもちゃ作り」では、「作り方や遊び方を工夫できるおもちゃ」「より良いかわりを生み出すことのできるおもちゃ」を学習指導要領の内容としており、対象となるおもちゃを具体的に知ることができた。また、製作に必要な材料や道具、その入手方法や活用例について指導をいただき、授業に生かせる研修となった。

4 成果と課題

授業研究と実技研修の二本立ての研修スタイルは、会員のニーズにより数年間実施し、今年度も好評を得ることができた。会員の教職経験は異なるが、子どもの自立を促す生活科の指導力を高めたいとの願いは共通であり、そのための研修を今後も実施していく。